

# 第 94 回大腸癌研究会 遺伝性大腸癌委員会

## 議事録

●日時：2021年1月21日（木）9：30～10時30分

●場所：浜松町コンベンションホール、6階、大会議室 A

●出席者：

〔現地出席〕委員長：富田尚裕、委員：石田文生、岡本耕一（上野秀樹委員の代理）、須並英二、山口達郎

〔Web出席〕委員：赤木 究、石岡千加史、石川敏昭、石川秀樹、石田秀行、石丸 啓、隈元謙介、小泉浩一、小森康司、佐々木和人、茂原富美（小林宏寿委員の代理）、主藤朝也（赤木由人委員の代理）、田中屋宏爾、千野晶子、問山裕二、長崎寿矢、中島 健、能浦真吾、長谷川博俊、檜井孝夫、平田敬治、松原長秀、松本主之、三口真司、宮倉安幸委員の代理の Dr(氏名不明)、三代雅明、山田真善、吉田直久、吉松和彦  
オブザーバー：河野真吾、福田純也、藤吉健司 （以上、五十音順・敬称略）

\*他、Gakaxy A41, ffujita, kei, 産業医大 ijisshu7、帝京大学 sugimoto など、氏名詳細不明のアクセス履歴が数件あり。

### ●審議・報告事項

1. 以下の3件についての報告があった。（富田委員長より）（別紙1・2参照）

- ① FAP 一次研究の論文作成未完了分について
- ② 臨床研究2件（FAP, Lynch）の進捗状況について
- ③ 遺伝性大腸癌診療ガイドラインの改訂・および英文論文について

2. 2つの臨床研究の今後の予定についての報告・審議があった。

- ① 『家族性大腸腺腫症(FAP)に関する後方視的多施設共同二次研究』

（FAP-WG 担当の山口達郎委員より） 昨年10月末日で登録終了としたが、16施設から総計600例の症例登録があった。今後、データクリーニングを行い、論文テーマを募って論文を進めていきたい。論文の執筆権(1<sup>st</sup> authorship)については、症例登録数の順で決める予定だが、前回のFAP一次研究でも10数編の英語論文を刊行できたので、今回も10名くらいの委員に執筆してもらえと思う。登録症例が125例と非常に多い大阪国際がんセンターは竹内洋司委員の名前で登録となっているが、石川秀樹委員のクリニックの症例も入っていると思う。論文執筆権についてはどのようにしたら良いか。

（石川秀樹委員より）基本的にはすべて大阪国際がんセンターで継続診療してデータ登録を行っている症例なので、同施設の登録症例ということで考えていただいて結構である。

- ② 『後方視的観察研究による日本人リンチ症候群の大腸病変に対する消化器内視鏡研究』

（LS-WG 担当の田中屋宏爾委員より） 登録終了についてはFAPと同様で、17施設から総計312例の症例登録があった。論文の執筆権については、症例登録数だけではなく、症例登録数と内視鏡検査件数の合計数の順で決めたいと考えている。論文のテーマについては、

現在、別紙3のような候補テーマを考えているが、この中の2, 3項目を組み合わせたの論文になるかもしれないし、また、このリスト以外のテーマも考えて提案して欲しい。

(中島 健委員より) 2つの臨床研究とも多数症例を登録した施設から共著者リストを作成することになると思うが、機械的に1施設1名では無く、登録症例数の多寡も考慮してはどうか、多数症例の登録をした施設で登録に貢献したDr数名が共著者になれるようにして欲しい。

(富田委員長から回答) 当然、そのような考慮は必要と考える。また、論文によっては、統計学者など、本委員会委員以外の方を共著者に加えることも必要になると思う。

(田中屋宏爾委員より) まず、現時点での登録生データを参加施設に送付して欲しい。

③ 今後の解析の進め方・論文作成について、色々意見交換があり、最終的に以下の提案がなされた(富田委員長より)

- ・昨年10月末で登録終了となった後も追加登録の申し出が若干あったが、今後の追加登録については解析開始までの期間で登録事務局が受付可能の判断した場合に限り受け付けることとする。 \*その後の検討で、最終1月末日を最終締め切りとすることとなり、メールにて委員会の全委員に通知した。

- ・登録いただいた登録票には入力エラーや欠損値なども多々見受けられ、データクリーニングが必要であり、登録事務局の山口達郎委員の個人で負担できる業務量では無いので、委員会予算からアルバイト雇用などを考える。

- ・近日中にFAP, LSとも、登録生データを参加施設に送付して、どのような論文テーマがあるか考えて、論文執筆希望の委員は事務局まで希望を連絡していただくこととする。

- ・今後のタイムスケジュールとしては2月から2ヶ月くらいでデータクリーニングを行い、それが終了した時点で、クリーンアップデータを参加施設に送付して、具体的な論文テーマ、および執筆者を決定する。次回の7月の大腸癌研究会の際に、具体的な論文テーマ・執筆者の最終確認を行う。

- ・論文執筆に関する具体的な手順(論文テーマの候補・執筆権(authorship)の優先順位の決め方など)については、登録事務局・FAP-WG担当(山口達郎委員)・LS-WG担当(田中屋宏爾委員)・富田委員長を中心に検討して、近日中(2月初旬)にアナウンスすることとする。

3、昨年の委員会名簿整備・改訂以降の委員の異動についての報告(富田委員長より)

東京女子医科大学東医療センター外科、吉松和彦委員が、2020年10月から川崎医科大学消化器外科に異動。同施設の施設代表者にて本委員会の委員は継続。

4、今後の委員会の運営について(富田委員長より)

富田個人は、昨年2020年春に大学を定年退職となり、世代交代の観点からも委員長の交代を希望する。できれば本年に交代をと考えているが、大腸癌研究会自体の動向も踏まえて、現在検討していただいている状況である。

(文責: 富田尚裕)